

## 炉でお茶を点ていただきました

第4回日本文化講習会が1月20日、崇禅寺さんで行われました。理工学部の池の周りに集合し、大学から手配していただいたバスに乗り向かいました。留学生9名(マレーシア出身5名、ベトナム出身1名、カンボジア出身1名、タイ出身1名、インド出身1名)、桐生支部関係者10名が参加しました。この中には会員のお子さん2人が含まれています。お子さんが希望したということでした。今回も、北関東産官学研究会のご支援をいただきました。

会場となった庫裏のお座敷の障子2枚に亘って今年の干支である龍が描かれていました。ご住職の奥様が描かれたものとか、お優しい奥様の描かれたもので、優しいお顔の龍でした。

今回も官休会の先生方5名にご指導をいただきました。支部長のあいさつの後、官休会の先生にご挨拶をいただいた後、今年度すべての講習会に参加したマレーシアからの留学生2名に修了証書が授与されました。副賞として桐生ハンカチ(吸水性があって、濡れ感のないハイテクハンカチ、Made in Kiryu)がプレゼントされました。

新年とあって、炉を用いた本格的なお点前を見せていただきました。蒔絵の炉縁で立派なものでした。お棚にもベンジャミン焼の水差し、建水、柄杓置きが飾られ、格調高いものでした。最初に3種類のお辞儀の仕方、茶菓のいただき方、お茶のいただき方を復習し、梅の花をかたどった和菓子をいただきました。次いで、先生方が点てくださった抹茶をいただきました。子供たちも、お茶がおいしいと飲んでいました。お茶碗の鑑賞の仕方を教えていただいたので、学生さんたちはそのとおりに眺めていました。袱紗(ふくさ)のさばき方を前回に続いて教えていただいたのですが、難しいようでした。講習会を通し、伝統的な日本文化の一端に触れることができ、感慨深かったようです。

質疑応答では、紫色の衣類は着てはいけないのですかという質問がありました。紫色は高貴な色であり、官位の高い人のみが着ることができたという史実から、そのような理解が生まれたのではないかということになりました。また、お茶会はどのようなときに催されるのかという質問もありました。先生からは、何も特別な理由は要らないので、お誕生会、仲間が集まった時等に開いたらいかがですかという回答をいただきました。お茶を一服いただいた後に、もう一服いただきたいというのは、大丈夫なのですかとこの質問がありました。美味しかったということでしょうから、遠慮なく申し出てくださいとお返事をいただきました。お抹茶を気に入った留学生が多かったようです。先生方も喜んでくださいました。

官休会の先生方、1年間に亘ってご指導くださりましてありがとうございました。楽しい時間を過ごすことができました。日本文化についての理解も深まったことと思います。学生さんたちも、真面目に真剣に向き合ってくれました。

桐生支部参加者一同



正座、頑張っています。



2人とも皆勤賞です。賞状と賞品が授与されました。



炉でのお点前は初めてです。お菓子も美味しかったです。



新年用の床の間飾り お茶碗の鑑賞の仕方



袱紗のさばき方  
ご指導くださった先生方



記念撮影。参加者は小学生から70代まで、広い年齢層です。  
楽しかったし、お菓子もお茶も美味しかったです。